

第4回 同窓会報

〒564-8680 吹田市山手町3丁目3-35

☎06-368-1121 内線5840

同窓会編集委員会 発行

《定年に際して》

「寅年の定年退職に思う」

化学工学科教授 西村山治



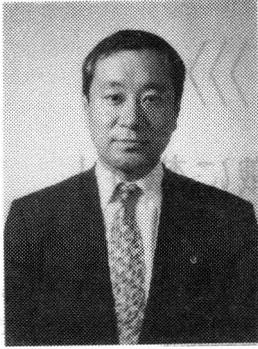
年改まり、関西大学にとって百十二年目の清々しい新春を迎えたが、同時にわが工学部にとっては創立四十周年という記念すべき意義深い年を迎える。ところで今年は干支でいうと戌寅（つちのえとら）にあたる。

干支は紀元前の古代中国、周氏に始まり、戦国から漢代にかけて整ったもので、わが国へは仏教伝来と共に伝えられている。元来干支は生命あるいはエネルギーの成長、発展、収縮する変化の過程を分離、約説したものである。寅は虎を指すようであるが、本来動物は干支の意味とは何の関係もなかったが、干支が普及するにつれて古代中国人の誰かが、一般庶民にも理解し易いようにと、動物を夫々にオーバーラップさせて説いたものらしい。十二支はもともと時間の動き、特徴を表わし、寅は一日の時間で云えば午前四時から六時の間、季節は二月で、寒さで凍った土が融け始め、草木の新芽が陽春を待ちわびて顔を出そうとしている時期にあたる。古代人は生命力が発展して勢いが盛んになる生活環境をみて、当時の人間にとって最も威勢のよい動物は虎であるという見方から「寅」に虎を当てたらしい。

虎の飼育者によると、虎は利口で気高い動物で、無駄な動きはせず、寝ていても耳は音のする方向を追っていて、いつでも飛び出せる態勢をとっているという。虎に関する諺も多い。虎穴に入らずんば虎兇を得ず、虎は千里行って千里を帰る、虎の威を借る狐、虎口を脱す、虎視眈々等々。昨今アジア通貨不安、株式市場の混乱、金融機関の波綻が続出し、景気は不透明で足踏み状態というか、下降気味、日本経済は嘗てないような不況に喘いでおり、産業の空洞化、社会の活力の喪失、生活水準の低下が懸念されているが、今年は寅年、景気が悪い悪いと騒いでいるだけではよくならない。同窓会諸氏、一人一人がいい意味の自信をもって、次世代のことを考えて虎のように千里を往復する心情で、ピンチはチャンスであると虎視眈々と機会を窺い、勇猛な虎の威を借りてでも元氣を出して、虎穴に入らずんば虎兇を得ずという心構えで、昨今の深刻な不況の虎口からの脱出を試みては。

本学における退職は70才。70才をいうと“70にして心の欲するところに従えども、矩をこえず、論語に云う従心。また70才という人口に膾炙しているのは古稀、杜甫の詩“曲江、”の中の“人生七十古来稀なり”。文字通り古稀は古来稀なりですが、確かに嘗て人生50年の時代には70才という古来稀であったが、しかし、最近日本人男性の平均寿命約78才という時代では、70才はまだまだ人生の一里塚。ヴィクトルユーゴーは“40才は青年の老年期であり、50才は老年の青春期、”と書いているが、現代風では“60才は青年の老年期であり、70才は老年の青春期、”。人は年を重ねるだけでは老いない。現想、夢、ロマンを失う時に初めて老いが来ると嘯いて、自らを奮い立たせている今日この頃である。

「雇用を創造確保出来る人になれ」



コニシ株式会社(昭和47年卒)
取締役 副社長 小西 哲夫

徳永淳次先生の移動現象研究室を卒業し、法学部に編入、その後名古屋の会社に3年間お世話になりました。それから父の会社に入りました。工学部と法学部を経験して、考え方に大変幅が出来ました。又、徳永先生を始め諸先生方に教えて頂いた多くの事が、現在の私に大変影響を及ぼしております。37才の時に、異業種の友人を持つとうと思ひ、青年会議所に入りました。日米構造摩擦問題(規制緩和)時に、阪大経済学部の蛸山先生の下、日経新聞、テレビ、雑誌

記者と共に米国に行きました。それまで勉強してきたことを元として言うべき事ははっきり述べると、ミネソタ名誉市民になれました。

今までの経験から皆様に何か役に立つ事と思ひ、この文章を書きました。入社6ヶ月後、オイルショックにつまづき突然会社が銀行管理になり、800人の社員を400人にするという再建案が出され、希望退職が実施されました。新入社員研修中の私は、人事課に配属されました。辞めていかれた人の中には、慣れない仕事場で機械に巻き込まれ片足切断、あれほど元気の良かった人が、1ヵ月後突然亡くなったり、同期に入った社員のお父さんから、息子の退職を止めて欲しいとの相談等、悲しい事がたくさんありました。雇用不安のない生活を皆が送れるために、安心して働く所があるという事が、生きていくための最も基本になる事であります。収入が下がり、物が売れない。次世代の教育水準が下がる。働く所がない人は、食べるために犯罪を犯し、このため拘置費用など後ろ向きの費用がかさみ、税金が上がらないので、経済柱のひとつである道路、通信等の社会生活の環境整備・拡張が出来なくなり、国民のパワーを出し切れない。社会福祉は打ち切れ老後も大変になり、悪い方へ回っていきます。

何をすべきか。経済が地球規模になっているので、社会に出る前にある程度の語学力は身につけよう。英語は発音が下手でも大丈夫。米国は移民の集まりで、それぞれの出身国の訛りで話している。相手に通じさせようとする意志と内容と、広辞苑付の英和・和英辞典があれば、会話の内容も広がり、便利この上ありません。

老子が孔子に餞別の言葉として送った「頭の良い奴がよく足をすくわれるのは、他人を批判しすぎるからだ。諷知りがよく危ない目に遭うのは他人の悪を暴くからだ。自己主張は控えめにして他人について配慮する事が大事。」物事はどこかで妥協しなければならないので、プライドの高い相手には、全面否定せずに、良い意見だ、だけどこの部分はこうすればもっと良いのではないかと、というように話せば相手も聞き入れ易くなります。これが話す時のマナーです。

本については、活字になると人は信用してしまうが注意が必要。読ませるために大袈裟に書いた事が多い事を理解した上で、いろいろな本を読むことは大いにためになります。勉強会にも大いに出て、大いに研鑽してください。

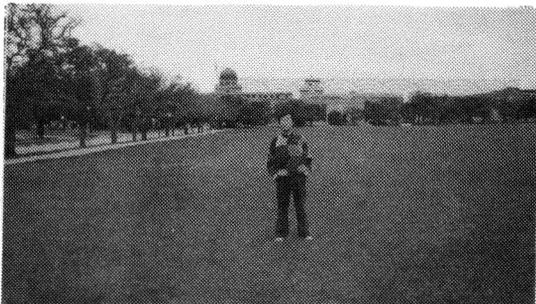
質の高い情報は、集まるべき所に集まっているので、大学を出てからも勉強し、然るべき人のいる会に入り人脈を増やし、質の高い友人を作ることに心掛けて頂きたい。新製品の寿命は30年、会社は30年で60%倒産、いろんな分野で活躍されることを祈念いたします。

「アメリカ合衆国での在外研究の近況」

関西大学工学部化学工学科助教授(昭和57年卒) 山本 秀樹

1997年度の9月末より関西大学在外研究員として1年間アメリカ合衆国にありますTexas A&M Universityの化学工学科で共同研究する貴重な機会を得ました。まだ研究を開始したばかりですが、化学工学科の同窓生の皆様にご報告いたします。

留学先のテキサスA&M大学はアメリカ合衆国の南部、カーボーイ(牛)と石油で有名なテキサス州のガレッジステーションにあります。この大学はヒューストンの北方、車で約1時間30分のところに位置します。この町はその名の通り、学生町で大学を中心に開けた町といえます。テキサスの気候は、暖かく、朝は少し寒い程度で、1月でも日中は半袖で十分です。朝晩の温度差が大きく、20℃になることもめずらしくありません。午後の日差しはとともきつく、家内も私もサングラスは外出時の必需品となっています。物価は日本に比較して低く、特に牛肉などの肉類は安く、日本の2分の1以下で驚きました。(味のほうはもうひとつですが?)



テキサスA&M大学の学生数は4万5千人で全米でも大きな大学の1つに数えられています。広大なキャンパスには各種研究施設がゆったりと配置され、日本と違って駐車場も十分にあります。近代的な2つのライブラリー(Evanse LibraryとGeorge Bush Library)には毎日多くの学生や研究者がきて、夜遅くまで利用しています。特に、今年オープンしたばかりのGeorge Bush Libraryはブッシュ元大統領の寄贈によるもので、昨年11月7日にはクリントン現大統領夫妻、ブッシュ、カーター、フォード元大統領夫妻の歴代の大統領の出席するなかオープニングセレモニーが盛大に行われました。これらの大統領を一度にみることは、日本人の私には大変貴重な機会でした。また、広大なキャンパス内には7万人収容できるアメリカンフットボールのスタジアムやゴルフ場などがあります。この大学は農学系、獣医学系の学科も有名で、それぞれ広大な試験場を所有しており、これらの敷地も加えると関西大学の10倍以上?だと思います。

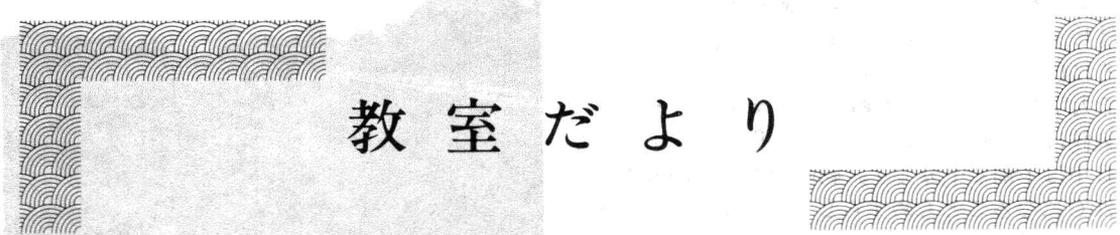
化学系の学科は特に規模が大きく、充実しており、専任の教員数はノーベル賞受賞者を輩出している化学で49人、化学工学24人、生化学30人です。私は同大学の化学工学科のHall教授の指導のもとThermodynamics Research Groupで研究を開始することになりました。研究室は大学内のZachry Engineering Centerにある化学工学科とThermodynamics Research Centerの2カ所に個室を頂きました。これらのオフィスを拠点にして研究活動を行っております。現在は毎日悪戦苦闘の忙しい毎日を送っております。Hall教授は化学工学科の教授であり、Thermodynamics Research Centerのディレクター(スタッフは20名)も兼任されており、ご多忙な先生ですが私にとっては大変勉強になっております。

関西大学しか知らない私は、ここに来て本当に良かったと思いました。多くの若手の研究者(助教授やPh. D.)に出会いました。みんなとても明るく陽気で、私を迎えてくれました。どの学科も国際色は豊かで、アジアからは中国、韓国、インドネシア、インドからの学生が多いと思います。テキサスの田舎に位置するため日本人は少ないようで、化学工学科にはたった1人でした。若手の研究者たちはどのセミナーでも活発に発言し、その積極的な研究態度は私にとってとても強い刺激(研究意欲)になっています。また、化学工学科は毎週金曜日に学外の著名な教授や企業の研究者を招いてセミナーを開催しております。最先端の研究発表を聞くことができるこのセミナーには、

化学工学科のほとんどの教授、助教授と大学院生が顔をそろえ、学生の研究意欲の啓蒙に役立っています。また、先日 Graduate Research Symposiumが開催されました。このシンポジウムは20名ほどの企業の研究者を招待して、大学院生が自分の研究発表する研究発表討論会で、テキサスにある化学系の会社の研究員の厳しい質問に大学院生が熱心に答える姿に感心させられました。

その夜のディナーパーティでは招待者の審査によって優れた研究3件が学科主任から発表され表彰されました。このように大学と会社が協力して行う企画も多く、企業は良い人材を、学生は自分売り込むのによい機会となっていました。

まだ3カ月半しか経過しておりませんが、アメリカ生活から多くのことを学んでおります。このような機会を頂いたことを心から感謝いたしております。しっかりと体験し、帰国後は母校で少しづつ生かしていきたいと思っております。研究はこれからですが機会がございましたら、またご報告させていただきます。



教室だより

西村山治先生退職記念講演および祝賀会のご案内

西村山治先生が本年3月末日をもって定年を迎えられます。先生は昭和45年4月に本村に着任され、以来28年の長きに亙り、教育と研究を通じて人材の育成と化学工学科の発展に尽力され、大きな功績を残されました。また、工学部長や理事など大学の根幹となる要職を歴任され、大学の運営にも多大な貢献をされました。

このたび、関西大学ご退職を機に、先生のこれまでのご功績を記念し、あわせて感謝の微意を表すため、下記のように記念事業を企画しました。つきましては、多数の卒業生の皆さんにご協力下さいますようお願い申し上げます。

西村山治先生退職記念事業実行委員会

記

- ◆日時：平成10年5月23日(土) 午後3時より午後6時まで
- ◆場所：「都ホテル」京都市東山区三条蹴上 TEL075-771-7111
- ◆会費：パーティ会費20,000円(記念品代含む)、同伴者10,000円
拠金一口5,000円
- ◆連絡先：西村山治先生退職記念事業実行委員会
〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 関西大学工学部化学工学科内
TEL06-368-1121(EXT5631,5942), FAX06-388-8869

<平成8年度入学生よりコース制導入される>

化学工学科では、化学反応や化学的原理の教育と研究を基礎として、単位操作の設計、運転の方法論やプロセス全体の開発、計画、設計、すなわち化学製品の生産に関する基盤の工学の教育と研究を目的としています。私たちの周辺を見回したただけでも、化学的な生産による物質や製品の恩恵を受けていることがいかに多いかが理解できると思います。

しかしながら、これからの化学生産技術は新素材生産、エネルギー転換技術、バイオテクノロジーおよびファクトリーオートメーションなどを含めて地球規模の資源・エネルギー、環境問題から見ても合理的な化学生産プロセスであることが必要です。このような観点から、平成9年度に資源・エネルギーコースと環境・プロセスコースの2つのコースを設置し、省エネルギーおよび地球環境適応型の化学生産技術についての教育をさらに充実させようとしています。本学科では、このようなフロンティアの開拓に弾力的に取り組める技術者の養成をめざしています。

なお、各コースに所属する研究室は以下の通りです。

★資源・エネルギーコース

抽出工学研究室（西村山治 教授・佐野 誠 助手）
資源循環工学研究室（芝田隼次 教授・山本秀樹 助教授）
触媒工学研究室（鈴木俊光 教授・池永直樹 専任講師）
エネルギー化学工学研究室（竹原善一郎 教授）
機能表面工学研究室（小田廣和 助教授）

★環境・プロセスコース

低温化学工学研究室（植村 正 教授・伊与木茂樹 専任講師）
反応システム工学研究室（室山勝彦 教授・林 順一 専任講師）
プロセスシステム工学研究室（中西英二 教授・青木 功 専任講師）
分離システム工学研究室（三宅義和 教授）



■編集後記

昨年企業においては、「リストラ」や「生き残り作戦」が真剣に取り組まれています。大学においても、18才人口の減少によって正に冬の時代を迎えようとしています。各大学共に、自己点検・評価を導入して活性化を計ったり、産学共同研究を促進するための研究機関・組織の新設を行い、魅力のある学府に改善しようとする努力が進められています。我が化学工学科も平成8年度入学生から、「資源・エネルギー」と「環境・プロセス」の2コース制を実施しました。工学部については、ハイテクリサーチセンターおよび学術フロンティアが新設されました。

さて、工学部創立40周年を迎え、教室を構成する教職員にも時代の流れが感じられます。昭和45年に京都大学より本学に着任された西村山治教授は、本年度をもって定年退職されます。教学・研究の傍ら、工学部長や学校法人関西大学の理事を歴任され、工学部の発展に多大なる功績を挙げておられます。本会報に「寅年の定年退職に想う」をご寄稿頂きました。なお、先生は退職後も非常勤講師としてお越し頂くことになっています。つぎに、昭和47年の卒業生のコニシ（株）副社長の小西哲夫氏には、様々な人との出会いや人生経験を交えて、企業のトップとして「雇用を創造的に生み出す能力」の必要性を提案して頂きました。最後に本学の卒業生の山本秀樹助教授には、留学先の米国A&M大学のレポートをお願いいたしました。先生ならびにご家族のご健康を願うと共に、益々のご活躍を教室一同期待しております。

なお、平成10年度の研究室紹介や人員の構成につきましては、次号でお伝えすることに致します。同窓会諸氏のご健康とご活躍を願っております。

（小田廣和）

平成8年度化学工学科同窓会会計報告

(平成8年4月1日～平成9年3月31日)

収 入				支 出			
費 目	予 算	実 行	差 額	費 目	予 算	実 行	差 額
前期繰越金	3,313,322	3,313,322	0	総 会 費	10,000	4,200	5,800
入 会 金	82,000	64,000	18,000	会 報 費	500,000	318,411	181,589
会 費	900,000	524,000	376,000	事 務 費	40,000	1,503	38,497
銀行利子	30,000	21,926	8,074	通 信 費	20,000	6,240	13,760
				卒 業 記 念 品	70,000	31,500	38,500
				人 件 費	216,000	216,000	0
				雑 費	20,000	813	19,187
				次 期 繰 越 金	3,449,322	3,344,581	104,741
合 計	4,325,322	3,923,248	402,074	合 計	4,325,322	3,923,248	402,074

平成8年度化学工学科同窓会会計監査報告

平成8年度の化学工学科同窓会の会計報告書に従って、金銭出納帳について慎重に会計監査を行った結果、平成8年度化学工学科同窓会会計の運用状況は厳正かつ正確であり、その記述内容に相違がないことを認めます。

平成8年度化学工学科同窓会会計監査委員 伊与木 茂 樹

阪 元 勇 輝

平成9年度同窓会予算案

(平成9年4月1日～平成10年3月31日)

化学工学科同窓会

収 入		支 出	
前 年 度 繰 越 金	3,344,581	総 会 費	10,000
入 会 金	85,000	会 報 費	500,000
会 費	600,000	事 務 費	40,000
銀 行 利 子	20,000	通 信 費	20,000
		卒 業 記 念 品	70,000
		人 件 費	216,000
		雑 費	20,000
		次 年 度 繰 越 金	3,173,581
合 計	4,049,581	合 計	4,049,581